1. 第 4 学 年

(1) 国　語

観点・小問ごとの分析	対策の視点
1 文字を読む 一、漢字を正しく読む 1.整える（67%）、2.固める（73%）、3.動作（71%）は比較的読めるが、4.食物（53%）は、他の小問に比べて低くなっている。 3.を「どうさく」、4.を「しょくぶつ」、「たべもの」と読み誤るものが多い。	◦ 新出、読み替え漢字として提出されたとき、漢字の読みを理解させることはもちろんであるが、辞書を利用して調べる学習と関係づけて、ある一つの字を含む熟語をとり出して読み比べさせ、漢字には多くの読み方があることを意識づける指導をすすめたい。
二、漢字の音訓を読み分ける 音訓の一方は読めても他方が読めないために、正答率は50%台にとどまっている。 1.「夜店」を「やてん」、「よるみせ」、「よかん」、「よま」と読み誤るものが多い。また、2.「告げる」は無答が目立った。正答率は1.は55%、2.は50%。	◦ 漢字の読みには音と訓があることを理解させ、漢字や熟語の読みを指導するとき、音・訓を意図的に取り上げて徹底させたい。
三、辞書の使い方がわかる 国語辞典の構成と引き方を辞書利用の知識として理解していないためと考えられる誤りがみられる。正答率1.は76%、2.は73%。	◦ 辞書利用の必要性を理解させ、児童の興味に訴えながら、辞典の使い方に慣れさせていく指導が大切であると思われる。
四、ローマ字が読める ローマ字で表記された拗音、促音、拗長音の理解が不十分なための誤りが多い。正答率1.は62%、2.は48%。	◦ ローマ字カードなどを使って、読み慣れさせると同時に、書くことを通して理解を深めることが大切であろう。

観点1（文字を読む）について

観点正答率63%に比べ、漢字の音訓を読み分けることの正答率50%台と低い。文字（漢字）を読む働きは、漢字の意味を理解する働きと密接な関係がある。単に読めればいいのではなく、漢字の意味をとらえながら読むという意識をもって学習させたい。熟語の場合、初めは語として読みを理解させ、次に一字一字について音訓を確かめ、その上で一字ごとの用例を取り上げ